

地域包括医療実習Ⅰ

科目責任者：千種雄一（医学部特任教授）

Ⅰ. 前文

我が国では、2025年までに、地域完結型医療、地域包括ケアシステムが実現される計画が立てられた。その要となるプライマリヘルスケア（primary health care）は、地域に根ざした包括的かつ継続的医療と定義される。疾患の治療だけでなく予防活動にも重点がおかれ、医療・保健・福祉のチームワークが大切である。将来、地域医療を担っていく医学部生には、低学年の早い時期から地域におけるプライマリヘルスケアを体験し、医療・保健・福祉・介護の活動とそのネットワークの状況などを学ぶことが望まれる。第1学年では、主に診療所実習を通じて地域医療におけるコミュニケーションの大切さを学ぶこととなる。

尚、本実習は、地域枠入学者には必須である。また、1年～4年まで継続的に実施し、ステップアップしていくことが好ましいが、自由選択者は1年間のみ履修も可能である。

Ⅱ. 受入可能人数

地域枠学生・地域医療に興味を持つ学生の場合、人数は制限しない。

Ⅲ. 担当教員

特任教授 千種雄一（医学部特任教授）

教授 田所望（教育支援センター）

准教授 稲葉未知世（教育支援センター）

講師 橋本充代（地域医療教育センター）

講師 上杉奈々（教育支援センター）

栃木県保健福祉部職員

診療所など地域の医療機関の院長・医師・職員

Ⅳ. 学習内容

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者
1	5	13	水	6	自己紹介 全体オリエンテーション	千種雄一 橋本充代
2		27	水	6	心構え・倫理的問題	上杉奈々
3	6	4	木	6	レポートの書き方・プレゼンテーションの仕方	橋本充代
4		18	木	6	地域医療に関する対話集会	栃木県保健福祉部職員 千種雄一 橋本充代
5		26	金	5	バイタルサインの測り方	千種雄一 田所望 稲葉未知世
6	7	1	水	6	直前オリエンテーション	千種雄一 橋本充代
7	7-8				診療所実習	近隣の診療所院長
8	9	2	水	7-8	実習報告会準備	全担当教員

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
9	9	10	木	6-10	地域包括医療実習報告会・実習検討会	全 担 当 教 員
10		30	水	7	2年との合同講義	外 部 講 師
11	11	28	土	1-7	地域包括医療セミナー	全 担 当 教 員
12	1	6	水	7	反省会	千 種 雄 一 橋 本 充 代

日程表の空欄や未定は予定が決まり次第、LMSで受講生には連絡する。また、日程表に記してある予定以外にも6・7時限・土曜日・日曜日・休日を利用して実習が入る場合があるので、その場合はLMSで連絡する。必ずLMSで連絡が取れるようにしておくこと。

尚、大学外の診療所が実習場所となるため、誰とでも礼儀正しくコミュニケーションを取れることを目指し、日頃より『周囲から信頼される医療者』にふさわしい人格と生活習慣及び倫理観を身につけるように努める。実習中は礼儀正しく挨拶・自己紹介をし、不注意な言動や行動は慎むことが肝要である。また実習では、患者様のプライバシーに関する情報に触れることになるが、たとえ匿名であってもレポートや報告書や報告会以外では興味本位に仲間内で話したりすることは厳に慎むようにする。

また、必須のカリキュラム以外に日頃から積極的に病院実習やボランティア活動を行う者は本実習扱いとなるので、自由選択プログラムとしてレポートで報告することにより成績に反映される。

V. 学修の到達目標

- 1) 栃木県の地域医療について説明できる。
- 2) 地域医療マインドを学び、説明できる。
- 3) コミュニケーションのとり方、レポートの書きかた、プレゼンテーションの仕方、バイタルサインの測ることができる。
- 4) 地域の診療所にてプライマリ・ケアを体験する。
- 5) 地域における診療所の役割を学び、説明できる。

VI. 成績評価の方法・基準

出席状況と実習態度の評価（各診療所からの評価を含む）及びレポートの評価を参考とする。カリキュラム以外に地域医療に積極的に関心を持ち、自らすすんで自由選択プログラムの実習をした場合、自己報告することにより、評価に加算される。

VII. 使用する教材・資料など

地域包括医療実習 I テキスト

必要に応じ、その都度紹介する。

参考図書：「神様のカルテ」「神様のカルテ2」夏川草介 小学館

「がんばらない」「あきらめない」鎌田實 集英社

「寄りそ医－支えあう住民と医師の物語」中村伸一 メディアファクトリー

VIII. 質問への対応方法

千種雄一（PHS：7086, ychigusa@dokkyomed.ac.jp）が窓口になり対応する。地域医療教育センターへの来室は、平日9：00～17：00（office hours）に行い、質問内容と連絡先をノートに記入すること。

IX. 求められる事前学習, 事後学習* () 内は所要時間の目安

事前学習 授業の各回毎にテキストの該当部分を読んでくること。(30分)

事後学習 授業内容を振り返り, 不明な点など調べたりしておくこと。(30分)

X. コアカリ記号・番号

A-7-1) 地域医療への貢献

XI. 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法

レポートを添削のうえ, 返却します。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

*◎: 最も重点を置くDP ○: 重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)		
医学知識	人体の構造と機能, 種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い, 他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療, 予防について原理や特徴を含めて理解し, 他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け, 正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け, 患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け, 患者やその家族, あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料, 情報通信技術(ICT)などの利用法を理解し, 自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち, 専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち, 実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し, 自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け, 自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け, 他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎